

<発言者>

<項目・内容>

委
員

員

1 委員挨拶

「最近の広域強盗事件について、特殊詐欺事件から凶悪犯罪に発展しており、県民として心配である。また、携帯電話を使い、国をまたいで簡単に犯罪ができてしまう世の中を憂いている。大きな犯罪組織があることも心配である。島根県でも同じような犯罪が起こるかもしれない。先日、交番の警察官が自宅に巡回連絡に来た。私が住む地区では高齢者が多いという話をしたところ、その警察官も地区の状況を把握していた。警察官が住民の様子をきちんと見られていることが分かって安心した。トルコ・シリアでの大地震については、日本でも南海トラフ地震がいつ起こるか分からないので、自分のこととして捉えないといけない。オリンピック・パラリンピック組織委員会の不祥事がまた発覚した。コロナの中で唯一明るい話題であった裏で、このようなことが行われていたということで、残念な思いである。明るい話題がなく、重苦しい日々が続いているが、警察がしっかり活動して、県民の安心感を取り戻してほしい。」旨の発言があった。

2 議題

(1) 公安委員会宛て苦情の申出

警 察 本 部

公安委員会宛て苦情の申出について説明があり、原案のとおり決定した。

(2) 行政不服審査法に基づく審査請求に対する裁決書（案）

警 察 本 部

行政不服審査法に基づく審査請求に対する裁決書（案）について説明があり、原案のとおり決定した。

3 報告

(1) 警察署協議会の活動状況等（令和4年10月～12月）

警 察 本 部

「主な諮問事項と答申及び警察署の対応として、益田警察署では、住民の巡回連絡への理解促進について諮問した。巡回連絡への理解と協力を得るためのチラシ等の配布をしてはどうかとの答申を受け、巡回連絡に合わせて、巡回連絡の目的等を記載したカードを作成し、担当警察官の名刺とともに配布し、不在者宅にはポスティングを実施した。津和野警察署では、年末年始における交通規制・雑踏警備の実施方針について諮問した。太鼓谷稲成神社警備における適切な通行対策の答申を受け、渋滞や交通事故防

止を目的に、一方通行や通行禁止の箇所を設けるため、役場や警備会社などの関係機関と連携し、立て看板の設置やチラシの配布及び当日の呼び掛けを実施するなどの広報を実施した。各警察署では、令和5年速度取締り指針について諮問した。松江警察署協議会では、指針に沿った適正な取締りを実施すること、津和野警察署協議会では、取締りのほか、速度抑止対策や関係機関との連携も大事にすること等の答申を受けた。その他交通に関する意見では、出雲警察署協議会において、交差点での交通事故防止対策についての意見を受け、多段階一時停止を推奨するなど交通事故防止対策を継続して実施することとした。また、大田警察署協議会では、自転車用ヘルメットの着用推進意見を受け、大田市に対するヘルメット着用推進の申入れ、自転車用ヘルメット着用プロモーターへの委嘱及び自転車マナー・ルール定着に資するDVDを作成するなど各種施策を推進することとした。視察等を通じた理解促進活動としては、松江警察署における島根県警察学校の視察、出雲警察署におけるミニ広報紙コンテストの投票、江津警察署における総合対処法訓練の視察、安来・雲南・大田・浜田・益田・津和野・隠岐の島・浦郷警察署における歳末特別警戒出動式の視察であった。主な意見・提言と警察署の対応としては、雲南警察署協議会から、雪害等により交通規制が発生した場合、迂回路等の情報を早く発信してほしいという意見を受け、道路管理者と連携し、署ホームページやケーブルテレビを活用した情報発信を継続して実施することとした。また、浜田警察署協議会からは、声かけ事案や誘拐等の事件に遭わないために、家庭や学校で話し合う機会が設けられないかとの意見を受け、防犯教室や情報モラル教室などを、引き続き学校と連携して実施することとした。令和4年11月17日、第22回警察署協議会連絡会議を開催し、各警察署協議会会長等が好事例や諮問結果を発表、討議した。また、サイバー犯罪対策課が、前年度の共通諮問である、『サイバーセキュリティに対する意識・理解を県民に広く醸成させる方策』への取組結果を発表した。」旨の報告があった。

- 委員 [意見]「私の出席した協議会では委員が積極的に発言しており心強い。良い制度だと思う。」
- 委員 [意見]「今まで数回協議会に出席したが、協議会によって意見の数に差があるように思う。事前に話題等を示しておけば、会議が充実すると思う。」

(2) 令和3年度島根県留置施設視察委員会意見書の提出及び措置状況

警 察 本 部

「留置施設視察委員会は、留置施設の運営についての透明性を高め、被留置者の適正な処遇を確保するため、留置施設を視察し、その運営に関して意見を述べる部外の第三者からなる機関であり、刑事収容施設法に基づき、警察本部に設置されている機関である。令和3年度の留置施設視察委員会の活動状況は、令和3年7月に、第1回留置施設視察委員会会議を開催し、松江署及び安来署、同年9月に浦郷署、同年11月に江津、浜田署の留置施設を視察した。令和4年1月に益田署留置施設の視察を予定していたが新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により中止とした。同年2月に第2回留置施設視察委員会会議の開催と、出雲署留置施設の視察を予定していたが同様に中止とした。委員会の意見と留置業務管理者が講じた措置等の概要であるが、施設面において、浴室の改善については、脱衣室の設置を検討した。面会室の改善については、面会室の増設、防音措置を検討した。小机の使用については、被留置者への周知の徹底を図った。居室の改善については、照明機器の取り替えを実施した。運動場の改善については、塗装による改修を実施した。事務室・仮眠室の改善については、ストレス解消方策を検討した。施設通路の改善については、専用通路設置を検討した。処遇面において、感染症対策として、電気カミソリ・替え刃の予算措置を執った。入浴の対応として、衛生面の配慮を徹底した。外国籍の被収容者の処遇として、通訳機として電子辞書を購入した。書籍の改善として、写真集の配布を検討した。その他、女性職員の配置として、計画的な女性職員の配置を実施する予定である。意見及び措置の概要については、県警ホームページに掲載している。」旨の報告があった。

委 員

[意見]「指摘や意見があった場合、できることは早く対応してほしい。」

委 員

[意見]「留置施設の視察については、全国的に新型コロナウイルスの関係で、できていない所が多い。外部の方たちが見ると、その施設の良し悪しが分かるので、是非、視察の機会を確保して、その意見を参考にしてほしい。」

(3) 出雲警察署整備事業の進捗状況

警 察 本 部

「事業概要として、昭和57年建設の既存庁舎の狭隘化、機能不足が顕著であることから、現庁舎を活用しつつ、不足している機能を充足するための新庁舎を、現庁舎に近接して建設する予定である。出雲警察署各課の事務室、相談室及び留置施設等の警察署機能は新庁舎に移転し、運転免許関係窓口や道場、倉庫等は、現庁舎を引き続き活用する予定である。新庁舎の概要であるが、鉄

筋コンクリート造の4階建てで、延面積は4,082.08㎡となる。事務室や相談室、留置施設等に必要な面積の確保や設備を整備し、警察署機能を強化する。来庁者の利便性に配慮し、バリアフリー化や、窓口業務を担当する課を1階に配置する。耐震強度の割増や、非常用発電機の屋上配置による浸水対策を実施し、耐災害性を強化する。進捗状況であるが、庁舎の実設計は、令和3年5月から始め、令和4年8月に終了している。建設工事の入札・契約締結は、令和4年9月に始め、同年12月に終了している。契約金額は税込みで、建築工事、電気設備工事等合わせて23億7,578万円である。建設スケジュールは、令和5年1月23日に建設工事を開始し、令和6年8月末に完成予定であり、同年9月頃に新庁舎の運用を開始する予定である。」旨の報告があった。

委員 [意見] 「様々な事案に対応できるよう、設備の充実を図ってほしい。」

委員 [意見] 「建物が整備されると、そこで働く職員も前向きな気持ちになれると思う。適切に整備することは良いことである。」

(4) 懲戒処分の実施

警察本部 懲戒処分の実施について報告があった。

(5) 全国及び島根県の自死の状況

警察本部 「自死者数の推移について、速報値で、全国で総数21,584人で、前年比577人の増加であった。男性の自死者が増加している。上半期は11,134人で、前年比89人の増加、下半期は10,450人で、前年比488人の増加であった。都道府県別自死者数は、最多が東京都の2,387人、最少が鳥取県の83人であった。当県は112人で、全国45番目であった。5月の自死者数が最多であった。当県の状況であるが、総数が112人で、前年比2人の減少で、女性が増加し、男性は減少した。上半期は60人で前年比6人の増加、下半期は52人で前年比8人の減少であった。4月の自死者数が最多であった。警察の取組として4点紹介する。1点目は、島根県自死総合対策計画に基づく連携である。島根県自死総合対策庁内連絡会の構成部局として、島根県障がい福祉課が主催する島根県自死総合対策連絡協議会へ参画している。2点目は、行方不明者発見活動である。令和4年の行方不明届受理件数は290件で、うち自殺企図者受理件数は48件であった。3点目は、子ども・若者への支援である。『ヤングテレフォン』など、若者が相談しやすい窓口を開設している。4点目は、インターネット上における自殺予告への対応である。自殺を仄めかす書き込みに対し、関係機関と連携した対応を取っている。」旨の報告があった。

委員	〔意見〕「自死の認定はどこがするのか。」
警察本部	〔説明〕「死因については医師が認定するが、警察はその判断材料を調査して提供している。」
委員	〔意見〕「全国的には自死のほう助事案などもあり、簡単に自死してしまうことは残念である。自死の予防は大切なことなので、自死を止め、悩んでいる人を助けられる社会制度が求められている。」
委員	〔意見〕「命を自ら絶つことは一番いけないことだと思う。色々な対策で予防できると良い。インターネットへ自死を予告する書き込みをする人や、新型コロナウイルスで経済的に困窮する人がいる。そういった社会的状況や地域の状況を把握していくこと。」
警察本部	<p>(6) 街頭防犯カメラシステム運用状況（令和4年中）</p> <p>「街頭防犯カメラシステムの運用規定に基づき、令和4年中の運用状況を報告する。設置状況は、歓楽街などを中心に、松江・出雲・浜田・益田の4市内に計57台を設置している。データ活用件数は118件で、窃盗捜査、飲酒運転等の道路交通法違反事件など事件捜査のほか声掛け事案などでも活用している。今後の活用方針は、警察で設置している街頭防犯カメラをネットワーク型に機種更新することとしており、これにより、事件発生の都度、オンラインで本部で映像を確認することで、早期検挙につながるものと考えている。」旨の報告があった。</p>
委員	〔意見〕「事件のニュースを見ていると、大体防犯カメラやスマートフォンの映像が出ている。犯人が言い逃れできない証拠である。防犯カメラの設置については、個人情報の問題もあると思うが、全国的に国民の命が脅かされる事件が発生している以上、仕方がないことである。防犯カメラがネットワーク化すれば、迅速な捜査が期待できる。」
委員	〔意見〕「防犯カメラの性能が良くなって、犯罪捜査の頼れる機械である。ただ、監視されている感じがして、息苦しくも思う。県内で防犯カメラがない場所もあるが、必要な場所には設置して、事件事故の解決に向けて取り組むべきである。」
警察本部	<p>(7) 自動車保険を悪用した詐欺被疑者の逮捕</p> <p>「被疑者は、自動車保険のレンタカー費用等補償特約を悪用し、契約自動車を修理工場に出す意思はないのに、あたかも修理に出す同車の代替としてレンタカーを利用するかのようになり、虚偽の申告をして、保険会社A社職員を欺き、無償でレンタカーを利用し、同レンタカー料金9万6,800円をA社に支払わせたも</p>

委員	<p>ので、令和5年1月24日、詐欺の罪で通常逮捕した。」旨の報告があった。</p>
委員	<p>〔意見〕「被疑者には、今後しっかり罪を償ってほしい。」</p>
委員	<p>〔意見〕「検挙できてよかった。こういった架空の請求が社会に横行しないようにしていかなければならない。」</p>
警察本部	<p>(8) サイバー攻撃対策の推進</p>
警察本部	<p>「令和5年1月19日、専門知識を有する部外講師による講義と実機演習を通じて、第一線における捜査員のサイバー攻撃に対する対処能力を向上させるため、サイバー攻撃対処能力強化研修を実施した。講師として、富士通株式会社の野田孝浩氏を招き、警察職員約20人が参加した。講義内容は、サイバー攻撃の情勢、サイバー攻撃の手口及び初動対応・証拠保全であった。『竹島の日』記念式典に伴うサイバー攻撃対策であるが、情勢として、平成17年の『竹島の日』条例制定以降、韓国が管理するIPからの大量のアクセスにより、島根県のホームページの閲覧に障害が出る等の事案が発生している。サイバー攻撃の発生が懸念される『竹島の日』記念式典に合わせ、警備部外事課長を長とする『サイバー攻撃対策連絡室』を設置し、有事即応体制を確立する。管理者対策として、サイバー攻撃の対象となり得る関係機関に対して、緊急時の連絡体制について確認するとともに、サイバー攻撃対策の徹底及び事案発生時の迅速な通報について要請した。また、インターネット上の『竹島の日』に関連したサイバー攻撃を扇動する書き込みやサイバー攻撃の予告の書き込み等について情報収集をしている。」旨の報告があった。</p>
委員	<p>〔意見〕「サイバー攻撃への対応に関する研修は、これからも続けていってほしい。個人情報の流出防止の観点からも、しっかり対応してほしい。」</p>
委員	<p>〔意見〕「時代が変わり、ITや情報セキュリティについての能力を身につける上で、どういう学びをするかが重要である。今までの研修内容に、新しい項目をどのように付け加えていくのか、職員全員が能力・知識を高めていくシステムも大切である。「竹島の日」の警備については、緊急事態への対応の仕方を確立して行ってほしい。」</p>
警察本部	<p>4 話題</p>
警察本部	<p>初任科第172期生（高卒程度）の卒業状況</p>
警察本部	<p>「初任科第172期生が初任科の課程を修了し、県内各警察署へ赴任した。この度の卒業生は、男性13人、女性7人の合計20人であ</p>

る。卒業式は、令和5年1月27日に新型コロナウイルス対策に万全を期して行った。部内外から多くの方に参加をいただき、卒業生の御家族にも出席していただいた。」旨の報告があった。

委員 [意見]「卒業生は、これから頑張っていこうという気持ちになっていると思うので、その気持ちを周りの職員が支えてほしいし、さらに育ててほしい。」

委員 [意見]「組織で卒業生をしっかりと育て、卒業生には立派な警察官になってほしい。今後もしっかり指導をお願いします。」

5 本部長総括

本部長 「全国的に発生している連続強盗事件について、広島・山口両県で関連事案が発生しており、当県でも絶対に発生しないとは言えない。先般、益田署では、幹線道路沿いの商店・民家にチラシを配布したり、交番・駐在所では巡回連絡等で注意喚起をした。戸締まりの徹底から、自宅に大金を置かないことや、不審車両を見かけたらすぐ通報するなどの呼びかけを今後も続けたい。委員から、執務環境が良くなることで心の安定にもつながるとのご指摘があったが、働きやすい職場づくりを進めるためには、ソフトとハードの両面で進める必要がある。ハード面については、予算の制約があるが、できることから進めてまいりたい。」旨の発言があった。